

[ライブ・サティー]

Live30

<https://www.omichikai.or.jp>

VOL.

229

2018年
秋号



CLOSE UP

地域住民との双方向コミュニケーションの場

「モニター会」

OMICHI ACADEMY

第59回 日本神経学会学術大会

第12回 日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in北九州

第38回 全国デイ・ケア研究大会2018 inつくば

OMICHI SCRAMBLE

第9回 脳性まひ講演会を開催しました

新人職員フォローアップ研修を開催しました

森之宮病院循環器内科川崎部長が医師が選ぶ専門医

「ベストドクターズ」に選ばれました

INFORMATION

ボバース記念病院が新しくなりました



最優秀賞
「Live30」
読者の声に即座に反映し、
最も優秀であったことと認め、
日本出版協会より
賞状を贈ります。

「モニター会」



月1回の会議では当法人の現状や今後の方針の他、各地域での活動内容等の情報が共有されています



モニター会を特集した過去の広報誌
(1989年9月号、1995年11月号)

地域住民との繋がり 「モニター会」発足のきっかけ

大道会は、1979年から地域住民や患者さん・ご家族への健康情報の提供を目的に、「健康教室」を毎月実施しています。そうした中、健康教室の参加者から地域の困り事に関する相談や、当法人をもっと知りたい等の声が多く聞かれるようになりました。当法人では、患者さん・ご家族の意見や要望に耳を傾けようと、入院・外来患者対象にアンケートも行ってきましたが、真に患

大道会では地域コミュニティとの関わりで健康教室やモニター会、講演会等の地域に根差した広報活動を行ってきました。今回の特集では、30周年を迎えた地域住民との双方向コミュニケーションの取り組み「モニター会」を紹介します。

「モニター会」の特徴と効果

者さんや地域のニーズを汲み取っていくには、客観的な意見や評価が不可欠でした。そのような背景から、地域住民と率直に意見交換を行う場が必要と考え、1989年4月、創立35周年記念事業の一つとして「モニター会」を設置しました。

モニター会の特徴の一つが、モニターの選出です。地域性を重視し、近隣に居住し、地域住民の代表(連合会や地域活動協議会等)として活動されている方を対象としています。現在は14名のモニターにご活躍頂いています。地域活動に従事する方には地域住民の意見や要望が集約されやすく、また地域住民に向けて情報を発信する環境が整っているため、地域のニーズを掘り起こすことができます。また、モニター会が継続できた要因の一つに、モニターを診療面で優遇しないことが挙げられます。特別に優遇してしまうと率直な意見が言いづらくなり、モニターの交代がスムーズに行えない可能性も出てくるためです。

月1回の会議では、まず理事長や副理事長から当法人の現状や今後の方針の他、前回より持ち越しの案件の報告等、当法人に関する様々な情報をお伝えしています。その後、モニターから当



東中浜まつりでボバース記念病院の看護師が救護班として参加

法人への質問や意見が示される他、各地域での出来事や活動内容、イベント紹介等の報告、地域住民が困っている医療や介護に関する相談等も行われ、多種多様な情報が共有されています。モニター会のもう一つの特徴は、理事長をはじめ各施設の責任者が出席し、モニターからの意見や質問に対して即答し、解決することをめざしている点です。即答できない案件は次回報告できるように状況把握し、対応策を検討します。

これまでにモニターから大道会に向けてもたらされた効果は、待ち時間解消のための電光掲示板設置、傘置き場の修繕、医師・職員の接遇改善、独居の見守りの相談や車いす介助の講座開催等、ハード面の整備から人材教育や意識付けのソフト面の強化まで多岐にわたり、法人運営に生かされています。一



社会医療法人大道会理事長
森之宮病院院長
大道道大

方、大道会からモニターに向けては、当法人の現状や今後の方針の報告、医療・介護政策の解説、イベント案内等、地域住民に役立つ情報を発信しています。さらに、モニター会をきっかけに、夏祭りやイベント等での救護活動や各地区の会館・集会所での出張講座等、活動の場が地域に展開することもあります。

モニターに参加している、大道理事長とモニターの代表である山形さんについて伺いました。

モニター会発足当時は、設備上の要望や医師に対しての厳しいご意見等多数寄せられましたが、現在では病院の機能や地域の活動・取り組みについて等、安心して暮らせる地域社会づくりに焦点をあてたご意見・ご要望へと変遷してきました。時には実現困難なご要望もございますが、なぜ実現させることが難しいかを丁寧に説明し、医療制度の特徴や当法人の役割をご理解して頂いてきました。

当法人では、「私たちが提供できる医療・介護・福祉」「私たちが挑戦したい医療・介護・福祉」、そして「患者・利用者さんから求められている医療・介護・福祉」の3つの視点を大切にしています。モニター会は地域住民から率直な意見を頂く仕組みですが、「患者・利用者さ



モニター代表
山形彰男

んから求められている医療・介護・福祉」は何かを常に考えさせられる大切な取り組みの一つです。この取り組みを通して、これからの地域住民や患者さん、ご家族の方々との信頼関係を構築・発展させ、地域医療の連携を促進していきたいと思っています。

モニター会に参加して5年が経ちました。モニター会では、国の医療政策の動向や大道会グループの方向性を知ることができる貴重な場です。また、私たちが普段知らなかった他の地域での活動内容がモニター会で共有されることで、モニター会が様々な地域活動を学ぶ場にもなっています。今後ますます高齢化が進む中で、地域の実状にに応じた医療・介護・福祉のネットワークを地域住民視点で構築して頂き、誰でも容易に情報を得ることができるようになることを期待しています。そして、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、これからも共に歩んでいきたいです。

今後の展開

当法人が拠点を置く大阪市城東区でも急激に高齢化が進み、地域住民から

の意見や要望も時代とともに変化してきました。それに伴い、当法人の広報活動も患者さんへの情報提供だけではなく、地域における当法人の役割の明確化や周知を図ることに力を入れてきました。地域住民の声を経営に生かす「モニター会」は、地域の縮図を表しており、地域で起こる問題は日本の課題ともいえます。時には耳の痛い意見も寄せられますが、日頃から親睦会等を通じて、率直な意見を交わせる関係の構築を大切にしてきたことが長年継続できている秘訣ではないでしょうか。地域住民との連携が地域医療を支え合う体制づくりには必須です。今後も、地域住民をはじめ行政や自治会、地域の病院や診療所等、地域コミュニティとの交流をさらに深め、地域に根差した私たちにしかできない医療・介護・福祉に挑戦していきたいと考えています。



親睦旅行を通して、モニター同士の親交を深めています

発表報告

第59回 日本神経学会 学術大会



森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科主任
三浦 教一

脊髄小脳変性症のリハビリテーションについて発表

日程：平成30年5月23日～26日
場所：ロイトン札幌

今回、札幌で行われた第59回日本神経学会学術大会において、「脊髄小脳変性症のリハビリテーション」というテーマでシンポジウムとして発表しました。脊髄小脳変性症の新ガイドラインというセッションの中の発表でしたので、簡単な脊髄小脳変性症のリハビリテーションにおける新しいガイドラインの説明と、当院で行っている脊髄小脳変性症のリハビリテーションについて発表しました。

当院では脊髄小脳変性症のリハビリテーションを継続的に実施しており、その中で現在確立されてきたカンファレンスにて、多職種で目標を共有することや、目標設定の方法、自主練習の方法等についてケーススタディを通して話をしました。

発表後のディスカッションでは、当院で実施された研究を通して、脊髄小脳変性症に対するリハビリテーションは有効であることが示されて

いるものの、どのような病期の方にどのようなリハビリテーションが有効なのかという具体的な内容に関してはまだ分かっていないので、今後エビデンスとして期待されているというご意見を頂きました。

発表の準備を通して、宮井院長代理や畠中先生にご指導頂き、自分達が行っている仕事を俯瞰してみることで目標を客観的にしていくことや、ご家族・ご本人と共有していくことの重要性、ニーズを汲み取ることの大切さ等に気付くことができた。また、北海道まで駆けつけて、発表前日までプレゼンの準備を一緒にして下さった宮井院長代理・畠中先生をはじめ、ご指導頂いた多くの方々に感謝します。今後、学んだことを業務に生かしていきたいと思えます。



シンポジウムでプレゼンテーションを行う様子

発表報告

第12回 日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in北九州



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科
高松 賢司

脳卒中患者のFIM運動項目と下位項目の改善の特徴について発表

日程：平成30年6月16日・17日
場所：北九州国際会議場

今回で第12回目を迎えた日本訪問リハビリテーション協会学術大会は、「その人らしく」を支えきることとすべてのステージでいける訪リハとは」がテーマでした。超高齢社会で求められる訪問リハビリテーションの役割について多角的に検討できるプログラムを組み込んで開催され、全国より約1600名のセラピストが参加しました。

私は、「回復期リハビリテーション病棟入院時から訪問リハビリテーション終了時までの脳卒中患者のFIM運動項目と下位項目の改善の特徴について」というタイトルで口述発表を行いました。当院の訪問リハビリテーションチームが介入した脳血管疾患患者51名において、先行研究で低下するといわれるFIM運動項目（セルフケア・移乗・移動）は低下せずに、全FIM運動項目が維持もしくは改善（食事・排泄は訪問開始時より満点）したことや、FIM

下位項目の改善理由について発表しました。今回の研究で、回復期リハビリテーション病棟入院時から訪問リハビリテーションへの円滑な移行によって、FIM下位項目として評価されるADL全般を改善することが可能であり、回復期リハビリテーション病棟からの退院後におけるADL低下に関する要因の改善において効果的であることを明らかにしました。

発表後、「病院から在宅への円滑な引き継ぎ方法」、「森之宮病院の訪問リハビリテーションチームが使用しているデータベースとその活用方法」、「先行研究で低下するとされた項目が上がった理由」、「重症別によるFIM変化について」等、様々な質問を頂きました。今回、発表を通じて多数の方々から貴重な質問・意見を頂き、日々の臨床での疑問が数点解決し、新たな課題を発見できたことが一番の収穫となりました。今後も地道に研究を進めていきたいと思えます。

発表報告

第38回 全国デイ・ケア研究 大会2018 inつくば



ボバース記念病院
リハビリテーション部
作業療法科
小川 真太郎

グループリハの楽しさ、やりがい、難しさ、奥深さ等を感じた

日程…平成30年7月13日・14日
場所…つくば国際会議場

今回、茨城県つくば市で行われた全国デイ・ケア研究大会にて学会発表をする機会を頂きました。デイ・ケア研究大会は全国の通所型のリハビリテーションに従事するリハスタッフや介護職員、ケアマネジャー等、多種多様な職種が集まって日頃の取り組みや研究結果の報告を行う学会です。

私は現在ボバース記念病院にて脳卒中維持期のご利用者を対象にした通所リハに携わっています。この度、私が担当するリハグループにおいて、今までは立つことへの恐怖心がとても強く生活動作に消極的であつたご利用者がグループを利用し、同じ疾患を持つ方々と活動を共にしていく中で次第に恐怖心の訴えが少なくなり、前向きに人との関わりや生活動作に取り組めるようになった事例を報告しました。今回、発表の準備を進めていくにあたり、グループリハの楽しさ、やりがい、難しさ、奥深さ等を感じ、考えることが多くありました。他の施設の取り組み等も聞く中で、どの施設の発表でも同じように試行錯誤しながらご利用者の地域参加や生活の質の向上に向けて取り組まれており、通所リハ従事者としてたくさん学び・刺激を得ることができました。また、リハスタッフのみでなく様々な職種の方が1人

のご利用者の生活に関わっており、院内だけではなくケアマネジャー等との地域連携の重要性を再認識しました。この経験や学会での学びを生かし、今後の通所リハにおける取り組みにおいて他職種と協力しご利用者の皆様の生活をサポートしていくことや、一緒になって楽しいことを見つければ地域に前向きに参加してもらえるよう努力していきたいと思えます。今回、このような機会を与えて下さった理事長・院長をはじめ、発表に向け指導・アドバイスを下さった先輩方・同僚の皆様、発表の応援に一緒につくばまで来て下さった通所リハの上司、発表に協力して下さいましたご利用者の皆様に深く感謝を申し上げます。

発表報告

第18回 大老協懇話会 (事例発表会)



グリーンライフ
療養サービス部1科
中居 啓子

ご利用者の送迎時間の有効活用 を研究テーマに発表

日程…平成30年7月6日
場所…梅田スカイビル ステラホール

大阪介護老人保健施設協会懇話会(事例発表会)とは、大阪府内の介護老人保健施設が、取り組んだ研究や事例を発表する場です。

今回、私は送迎時間の有効活用を

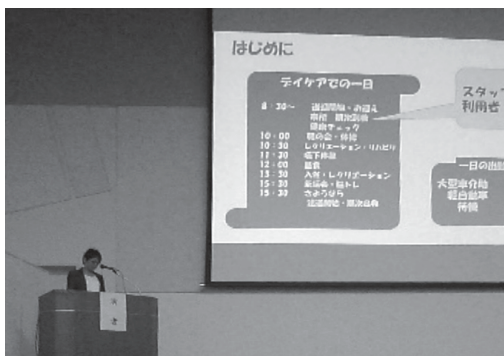
研究テーマにしました。グリーンライフの通所リハビリテーションは、送迎時間になると多くのスタッフが外に出てしまいます。テレビや読書で、ご自分の時間を楽しまれる方がいらっしゃる一方で「することがなく退屈です」という声が続いていました。スタッフが少なくなる送迎時間に何ができるのか、ご利用者にとって有益な時間になるよう見直すことにしました。

ご利用者の退屈な時間は、することが具体的にないことが大きな原因だとスタッフ同士で話し合いました。それを解消するため、ご利用者の座席に手芸用品・パズル・塗り絵等を用意することを検討しました。通所リハビリテーションならではの取り組みになるよう、手芸用品については作業療法士と理学療法士からアドバイスをもらいました。植木の底に使用する鉢底を利用した手芸用品や、道具を考案しました。また、麻痺のある方でも作業ができるように、重石等を用意することで、誰もが送迎時間に何か取り組めるように環境を整えました。それにより、ご利用者一人ひとりが手作業に前向きな姿勢となりました。作品が完成すると「欲しかった眼鏡ケースができた」、「塗り絵を孫にプレゼントできる」、「等、退屈しのぎをするだけでなく、目的や目標を持ち始めるご利用者も現れました。また、静かだった

送迎時間のデイルームが、他者と手作業の進捗を話し合う等、和気あいあいとした空間になってきました。

今回、事例発表の準備や当日の他施設の職員との交流で、ご利用者が「何を求めているのか」を検討することができ、送迎時間の有効活用についての課題や改善点も発見することができました。継続した取り組みにして、ご利用者それぞれの個性を最大限引き出せるよう、手作業だけではない時間の活用方法も検討していきたいと思えます。

今回の懇話会で様々な演題発表を聞き、グリーンライフに取り入れるべきことも多くあり、価値ある1日となりました。来年度もグリーンライフからの研究発表を予定しています。



緊張しながらも、しっかりと発表できました

森之宮病院

第9回 脳性まひ講演会を開催しました

5月12日、森之宮病院にて第9回脳性まひ講演会を開催しました。テーマは「脳性麻痺の方と家族の心理的問題」で、臨床心理士小松先生が講演され、45名の方が参加されました。これまでも定期的に講演会を開催してきましたが、心理的な内容は今回初めてで、参加者が深く聞き入っておられる様子が印象的であり、私自身にとっても大変興味深い内容でした。最後には質疑応答の時間を設け、講演内容に関することや日頃から気になっていること等多くのご質問を頂き、参加者にとつて有意義な講演会となったのではないかと思います。今後とも定期的に開催しますので、ぜひご参加下さい。



脳性麻痺の方と家族の心理的問題について解説する小松先生

(森之宮病院事務部フロントサービス課 坂田康平)

法人全体

新人職員フォローアップ研修を開催しました

大道会では、入職後6カ月が経過した新人職員を対象に、半日のフォローアップ研修を実施しています。本年度は9月29日に森之宮病院ウッディホールで開催しました。

研修前半では、ボバース記念病院リハビリテーション部の三浦主任が「生き生き仕事をするために」と題し幸福感をもたらすものについて講義を行いました。

研修後半では、グリーンライフ療養サービス部の岡田主任とボバース記念病院看護部の宮里主任が演習を行い、「わかりやすい報告」「論理的でわかりやすい組み立て」をテーマに、今すぐ現場で使える報告方法やわかりやすく伝えることができる方法等を学びました。今回の研修で学んだ事を生かして、今後、同期と力を合わせて、大きく成長していったほしいと思います。



グループで話し合った内容を発表し、新人職員で共有しました

森之宮病院

森之宮病院循環器内科 川崎部長が医師が選ぶ専門医「ベストドクターズ」に選ばれました

森之宮病院循環器内科の川崎大三部長が、米国ベストドクターズ社(Best Doctors, Inc.: 本社・ボストン)から医師が選ぶ専門医「ベストドクターズ」(Best Doctors in Japan TM 2018-2019)に選出されました。2014年から連続での選出です。

ベストドクターズの選出方法は、多数の医師に「あなた自身またはあなたの大切な人が特定の専門分野の医師を必要とした場合、誰を選びますか？」とアンケートを実施します。アンケートは専門分野ごとに対象医師を分類して行い、一定以上の評価を得た医師が選ばれます。各分野のデータベースは定期的に更新されるため、常に医療の最前線で活躍している医師が選出されています。日本でのデータベースには、450以上におよぶ専門分野と副専門分野の医師5万3000名以上が入力されており、ベストドクターズの医師として認定されている医師(Best Doctors in Japan)は約6500名です(2018年5月現在)。



Best Doctors in Japan 選出記念盾とともに

IHC健康プログラムを スタート

帝国ホテルクリニックでは新たな取り組みとして、日常の身体活動(運動習慣)を重視した新しい健康づくりでのサービスを、株式会社タニタとの連携と協力のもと「IHC健康プログラム」として開始しました。

「IHC健康プログラム」では人間ドック受診者に日常の身体活動データ(活動量)をドック受診の事前に計測して頂きます。そして、受診当日のメディカル検査データとともに健診診断結果に反映することで、日常の身体活動を意識し、健康増進に向けての4つのサポート体制(はかる・しる・つづける・かいぜん)を充実させるというメディカルプログラムです。特に日常の身体活動データは「からだカルテ(web閲覧)」のコンテンツを利用し、はかったデータを自分の目的や目標に合ったオリジナルグラフにカスタマイズすることができ、ひと目で変



帝国ホテルクリニック
ホームページ

からだカルテのホームページ

化が分かるようになります。また普段の生活に役立つ情報(タニタ食堂レシピや健康コラム)等も満載です。帝国ホテルクリニック主催の歩数イベント等も定期的に開催し、楽しく健康生活を過ごして頂けるようにサポートします。

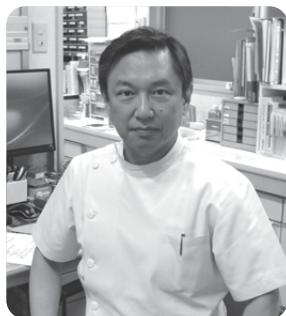
「2ヵ月間のチャレンジコース」も用意しています。この機会に、一度健康プログラムに参加してみませんか。いつかではなく、今から始めてみてはいかがでしょうか。

(帝国ホテルクリニック統括部長 宮本博之)



森之宮病院 登録医 紹介

27



川上クリニック

川上 朗 医師

大阪市東成区玉津1丁目11-22
内科、消化器内科、放射線科、
リハビリテーション科

川上院長は、昭和59年3月近畿大学医学部卒業後、近畿大学医学部附属病院放射線科に9年間所属されていました。その後、和泉市啓仁会咲花病院で2年間の内科研修を経て平成7年3月に川上クリニックを開院されました。

内科では、画像や検査データも診断をつけるうえで大切ですが、患者様との会話やご様子を見て、適切な診療を行うことにやりがいを感じておられます。放射線科でのご経験を生かして、院内には80列全身用CT、X線透視装置、超音波装置、経鼻内視鏡を設置しており、早期発見診断・即日対応をモットーに診察をしておられます。

「早く診断をつけて、適切な処置を行うことを心掛けて診察に臨んでいます。専門医療機関へ紹介することもあります。患者さんが元気になって戻ってこられた時が非常にうれしいです。」とおっしゃった時の照れくさそうな表情が印象に残っています。川上院長は在宅医療にも熱心に取り組まれており、5月から訪問看護師が入職し、現在2名の訪問看護師と共に診察に臨んでおられます。「機動力が身につき、素早い対応ができるようになりました。これからも力を入れて診察に臨みたいと思います。」アクティブな印象の川上院長の趣味はバイクツーリングです。お休みの日は奈良まで走りに行き、のどかな自然に癒されていらっしゃるそうです。

最後に、森之宮病院へ一言。「検査・入院・手術の紹介ではお世話になっております。在宅医療の患者さまの急変時には救急受入対応もしてもらっています。今後ともよろしくお願い致します。」

(森之宮病院診療部地域医療連携室 戸田梨香子)

「ボバース記念病院が新しくなりました」

10月1日、森之宮病院から小児部門が加わり、小児期発症の運動障がいがある赤ちゃんからお年寄りまでを継続して診療できる体制が整いました。機能拡充のために病院の内装も一新しています。1階の診察室や母子入院専用のリハビリテーション室はお母さんにも優しい作りになりました。待合室にはゆったりとしたスペースをとり、授乳室やプレイコーナーを設けました。リニューアルした2階病棟には子供たちが遊べる広々としたデイルームとカラフルな病室が並んでいます。障がいがある方が移動しやすいよう、エレベーターも新設しました。手術室も全面改装し、新しい機器を導入しています。これから、一人ひとりに合った治療を年齢に応じて提供していきます。

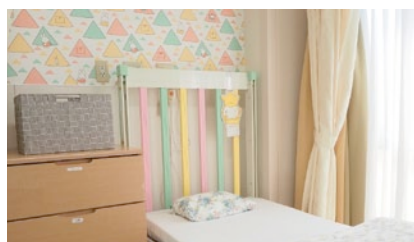
(ボバース記念病院事務部フロントサービス課主任 大西愛美)



診察室



1階リハビリテーション室



2階病室



2階デイルーム



1階外来待合スペースは明るく、車椅子が行き来しやすい広々とした空間へ



手術室も改修されました

ご寄付・ご寄贈を頂きました

栗本和子様、栗本健市様、庄司佳奈様、浅井勇夫様、名倉秀彦様よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

編集後記

残暑が続いていますが、皆さまいかがお過ごしですか。私は毎年夏に家族旅行をしています。子どもたちは暑さに負けず元気いっぱいです。私自身もしっかり体調管理を行い、あと少しの夏を乗り切りたいと思います。
(グリーンライフ事務サービス部地域課 中島弘貴)

Live30【ライブ・サーター】
2018年 秋号
vol.229

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL. 06(6962)9621
FAX. 06(6963)2233

●本法人の経営理念
1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー
親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

社会福祉法人山手学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

☎06(6974)7377